

スズカケ募金活動が行われる

東小学校のシンボルで、数年前から立ち枯れが進行しているスズカケの木を救おうと、PTAと学校が協力して、立ち枯れを防止する治療などに充てるため、「スズカケ募金」を立ち上げ、地域の人たちや関係者らに協力を呼び掛けました。

対象者は、東小学校区の住民や、同校関係教職員ら、1口500円とし、児童は協力できる範囲の額で協力を募り、目標額は80万円。同小学校区の区長や役員の協力を得て、各世帯に協力をお願いしながら、「スズカケの木」を助けるために、地域のかたがたの温かい協力を期待して募金活動を展開しました。



今も多くの子どもたちを見守り続けている……

東小学校には樹齢約1000年になる、東小のシンボルと言われている大木があります。

このスズカケの木は、大正3年に地元江口のかたからの寄贈で移植され現存しているもので、昭和58年7月に町の保存樹木に指定された高さ18m、幹回り3.45mの大木です。残念なことにここ数年立ち枯れが進行してしまい、現在では木の北半分ほどの枝が、夏の繁茂期を迎えても、葉をつけることなく枯れたままの状態が続いています。

今年の5月に樹木医が診察したところ、腐朽菌という菌が入り、立ち枯れを進行させている。枯れた枝を切り落とし、切り口を適切に処置し、土壌改良や、活力剤を注入して立ち枯れを抑える治療が必要と診断されました。今回の募金活動は、その治療等に掛かる費用に充てるために10月31日まで行われました。

この募金の結果は、わかり次第に広報紙でお知らせします。



環境飼育委員らによる演劇発表

スズカケの木の歴史を児童が紹介

10月19日には、約100年間、多くの子どもたちを見守ってきたスズカケの木の歴史を、より多くの児童に知ってもらおうと全校児童をスズカケの木の下集め、環境飼育委員（児童）らによるスズカケの木に関するショート演劇が行われました。スズカケの木の精が過去の出来事を語る劇で、東小に植えられた当時の様子や、当時のことをクイズにして、わかりやすく紹介。集まった児童たちからは大きな歓声が上がっていました。